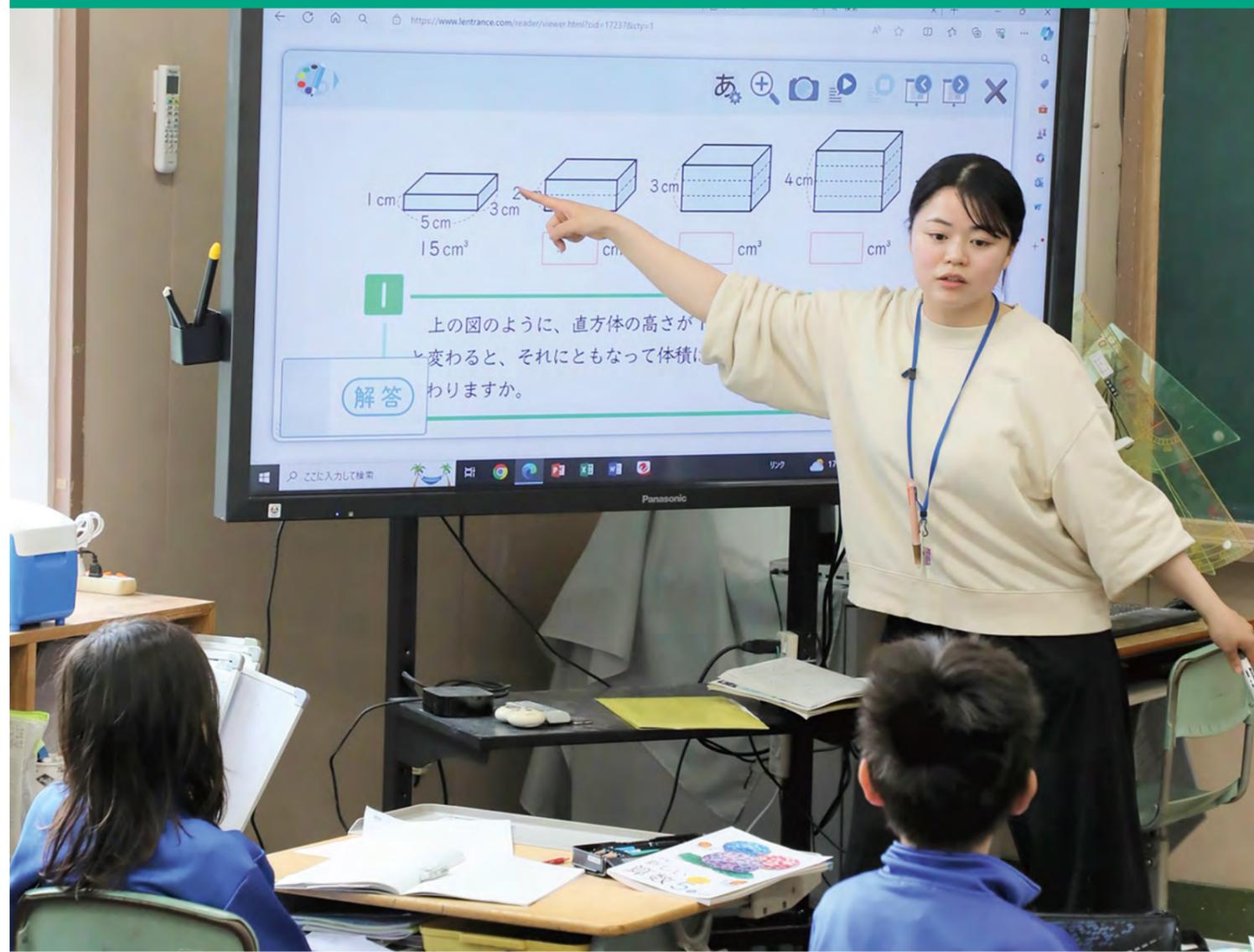


# 全国からの応援を、力に

町の財源として大きな割合を占めるふるさと納税。その役割を、改めて考えてみたいと思います。



志々小学校5・6年生の複式学級の授業をする川上真理恵先生

**全国からの寄附金が、町内のどこで使われているか知っていますか？**

## 教育環境の充実のために

モニターに映し出されるのは、指導者に小学校、中学校に導入された「デジタル教科書」。国語、算数、外国語、理科、社会、音楽、家庭科。これらの授業でデジタル教科書が使われています。

デジタル教科書とは、紙の教科書の内容をそのままデジタル上に記録した教材です。教科書の内容以外に、授業に役立つ機能がセットになっています。

たとえば、外国語の授業では、発音やイントネーションを学ぶために、動画の再生速度を変えたり、字幕を付けたりすることが出来ます。また、映像を通して表情や身体表現を学び、リズムに乗って発音することが出来ます。

このように、児童が楽しく授業に参加できるのも、デジタル教科書導入の利点の一つです。

デジタル教科書にこれらの機能が搭載されていることで、事前に授業の準備をする負担が軽減されました。

志々小学校の川上先生は、1年前に転勤してから、デジタル教科書を使用する頻度が高くなりました。「複式学級では、2学年が共に学んでいるので、教科によっては『わたり』という学習形態をとることがあります。そのため、単式学級にはない教材準備や配慮が必要となります。デジタル教科書を使う利点は多いです」。

## 主体的・対話的で深い学びの授業を目指して

町の総合振興計画は「教育・文化・子育て」の分野で、「学習環境の充実による確かな学力の育成」「ICT教育の実施」を掲げています。

今回、志々小学校で使われていた「デジタル教科書」は、先生だけでなく児童も使用します。映像やアニメーション機能を使って視覚化し、「動き」があることで、一人一人が主

体的に学ぶことができます。大野教頭は、「デジタル教科書の機能を効果的に活用して学力向上に努めます」と話します。

充実した学習支援機能を持つことで、先生の指導の仕方や児童の学びに変化が起きています。

## 町内への取組に還元

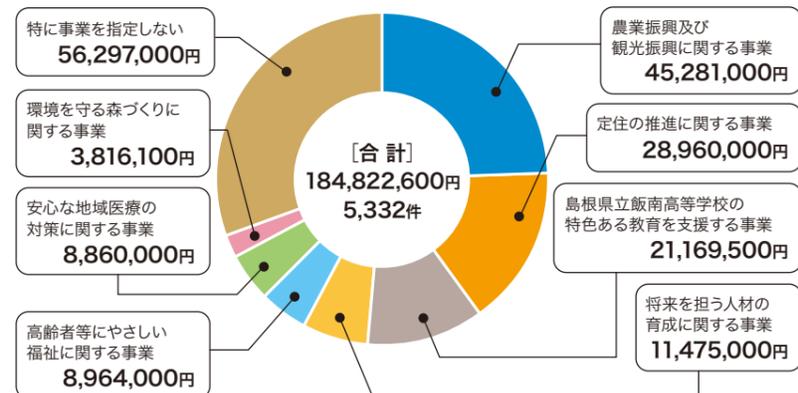
寄附金の活用例として「デジタル

## ふるさと納税の実績を報告します

ふるさと納税とは、生まれたふるさとや応援したい自治体に寄附ができる制度です。

令和5年度、全国から飯南町へのふるさと納税の寄附額は総額1億8,482万円余りとなりました。その寄附金は、町のさまざまな取組に活用されています。

## 令和5年度 寄附金実績



先生が5年生の授業中、6年生が答え合わせをしています

### ※わたり

複式学級で同時に両学年に指導を行おうとすると、どうしても学年別に交互に指導することになります。この方法を「わたり」といっています。

出典 島根県教育委員会「複式学級指導の手引き」